

最強の投資手法「スーパーボリンジャー」「スパンモデル」によるシンプルトレード

ドルストレート通貨ペア(ドル円、ユーロドル、豪ドルドル、ポンドドル)、クロス円通貨ペア(ユーロ円、豪ドル円、ポンド円)に関して、週足、日足、4時間足、1時間足分析を掲載します。

分析は、全て、先週末3月25日、日足終値時点(NY時間午後5時)での判断です。尚、内容は、私の有料情報サービス「実践トレードコーチング掲示板」(<https://www.eagle-fly.com/mur/>)から一部抜粋(毎日お届けしている中で、月曜日の朝一番の配信分のみ)です。毎日の配信をご希望の方は、ぜひ「実践トレードコーチング掲示板」(<https://www.eagle-fly.com/mur/>)をご覧ください。(動画配信を毎日行っております。無料お試し期間もあります。)

ところで、スーパーボリンジャーは、価格的要素を重視し、より短期の判断、スパンモデルは、時間的要素を重視し、より長期の判断です。そして、スパンモデルシグナルは、より短期の判断、赤色スパンは、より長期の判断です。

◆「マーフィーFX」YouTubeチャンネルはこちらです。

<https://www.youtube.com/channel/UCTQj289ZKb3JgFqj5RefBcg>

様々な相場解説を無料動画で視聴出来ます。

<<<主要7通貨相場週足、日足、4時間足、1時間足分析>>>

★「週足」はポジショントレードの大局観把握、

「日足」はスイングトレードの大局観把握、

「4時間足」はゆったりデイトレードの大局観把握、

「1時間足」はデイトレードの大局観把握に特に有効です。

尚、特に、1時間足は、刻々と変化するため、その都度の判断が必要です。

また、売買判断は、トレードスタイル別の大局観より下位の時間軸チャートにて判断することをお勧めします。

そして、トレード戦略の解説は、YouTubeで配信している「実践トレード解説」をご参考にしてください。

<<<主要7通貨相場週足、日足、4時間足、1時間足分析>>>

以下、東京時間午前7時頃現在の分析、大局観把握の判断結果です。

全て、スーパーボリンジャーとスパンモデルに基づいた判断です。

「週足」はポジショントレードの大局観把握、
「日足」はスイングトレードの大局観把握、
「4時間足」はゆったりデイトレードの大局観把握、
「1時間足」はデイトレードの大局観把握に特に有効です。
尚、特に、1時間足は、刻々と変化するため、その都度の判断が必須です。

また、売買判断は、トレードスタイル別の大局観より下位の時間軸チャートにて判断することをお勧めします。

■ドル円

<<週足分析>>

本格上昇トレンド局面。「走る相場」

終値が+2σラインを上回って以降、相場が上放れた状況。

終値と+1σラインとの位置関係を注視したい場面。

尚、目先、+2σラインを上回り「走る相場」となっているため、「リバーサルパターン」にも注意をして臨みたいところ。

「リバーサルパターン」の条件は、反落の場合、(1)1本前の安値をブレイクすること、(2)終値が+2σラインを下回ること、の両方を満たすこと。

<<日足分析>>

本格上昇トレンド局面。「走る相場」

終値が+2σラインを上回って以降、相場が上放れた状況。

終値と+1σラインとの位置関係を注視したい場面。

尚、目先、終値が+2σラインを上回り、「走る相場」となっているため、引き続き、「リバーサルパターン」に注意をして臨みたいところ。

「リバーサルパターン」の条件は、反落の場合、(1)1本前の安値をブレイクすること、(2)終値が+2σラインを下回ること、の両方を満たすこと。

<<4時間足分析>>

緩やかな上昇トレンド局面と調整反落局面が併存。

すなわち、終値がセンターラインを下回るまでは、緩やかな上昇トレンド局面が

続き、終値が+2σラインを上回るまでは、調整反落局面シナリオが残る。

<<1時間足分析>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

■ユーロドル

<<週足>>

本格下落トレンド局面。

終値と-1σラインとの位置関係を注視したい場面。

目先、「リバーサルパターン」の兆候が発生しているため、反転上昇しやすいとも読める。

尚、「リバーサルパターン」の条件は、反騰の場合、(1)1本前の高値をブレイクすること、(2)終値が-2σラインを上回ること、の両方を満たすこと。

<<日足分析>>

調整反騰局面と緩やかな下落トレンド局面が併存中。

終値が-2σラインを下回るまでは、調整反騰局面シナリオが続き、終値がセンターラインを上回るまでは、緩やかな下落トレンド局面シナリオが残ると読む。

いずれにせよ、この場面では、往来しやすい地合いにあると読む。

<<4時間足分析>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

尚、売りシグナルの逆行パターンの買いサイン点灯中。

<<1時間足分析>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

尚、買いシグナルの逆行パターンの売りサイン点灯時の最終ターゲットである-2σ

ラインには到達済み。

■豪ドル/ドル

<<週足>>

レンジ局面。

レンジ上限の目途である+2σラインに到達。

遅行スパンの同期性にも注目。すなわち、高値を付けたローソク足を通過するタイミングにあり、当面の高値を付けやすい場面にあると読む。

<<日足分析>>

本格上昇トレンド局面。

終値と+1σラインとの位置関係を注視したい場面。

目先、「走る相場」の後だけに、「リバーサルパターン」の発生にだけ注意したい。

赤色スパン陽転の順行パターンの買いサインも点灯中。

<<4時間足分析>>

緩やかな上昇トレンド局面。

終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。

買いシグナル、及び、赤色スパン陽転の順行パターンの買いサインも点灯中。

<<1時間足分析>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

赤色スパン陽転と買いシグナルの順行パターンの買いサインが点灯中。

■ポンドドル

<<週足>>

本格下落トレンド局面。

終値と -1σ ラインとの位置関係を注視したい場面。

尚、目先、「リバーサルパターン」が発生している点に注意したい。

「リバーサルパターン」の条件は、反騰の場合、(1)1本前の高値をブレイクすること、
(2)終値が -2σ ラインを上回ること、の両方を満たす場合。

尚、赤色スパン陰転の逆行パターンの買いサインも点灯中。

<<日足分析>>

調整反騰局面。依然として、センターラインを巡るブル・ベアの攻防戦の格好。

売リングナルの順行パターンの売りサイン点灯継続する一方で、赤色スパン陰転の逆行パターンの買いサインが再点灯中。

売リングナル点灯時の猶予期間中につけた安値ラインが引き続き上値レジスタンスとなっている。

<<4時間足分析>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

赤色スパン陽転の逆行パターンの売りサインが点灯中。

<<1時間足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

■ユーロ円

<<週足>>

レンジ局面から本格上昇トレンド局面入りするかどうかの瀬戸際に位置。

赤色スパンが陽転。「1本勝ちパターン」となって高値を付けるかどうかの瀬戸際。

<<日足分析>>

本格上昇トレンド局面。

終値と+1σラインとの位置関係を注視したい場面。

買いシグナルと赤色スパン陽転の逆行パターンの売りサインが点灯中。

このような場面では、スーパーボリンジャーの判断を優先させるのが無難。

<<4時間足分析>>

緩やかな上昇トレンド局面。

終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。

買いシグナルの順行パターンの買いサイン、および、赤色スパン陽転の順行パターンの買いサインが点灯中。

<<1時間足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

■豪ドル円

<<週足>>

本格上昇トレンド局面。

終値が+2σラインを上回ったことで、相場が上放れた格好。

終値と+1σラインとの位置関係を注視したい場面。

尚、目先、+2σラインを上回り「走る相場」となっているため、「リバーサルパターン」にも注意をして臨みたいところ。

「リバーサルパターン」の条件は、反落の場合、(1)1本前の安値をブレイクすること、(2)終値が+2σラインを下回ること、の両方を満たすこと。

陽転中の遅行スパンが高値を付けたローソク足を通過するタイミングである点にも注目。

<<日足分析>>

本格上昇トレンド局面。

終値と+1σラインとの位置関係を注視したい場面。

尚、相場が上昇方向で走っている為、「リバーサルパターン」の発生にも注意して

臨みたい場面。

「リバーサルパターン」の条件は、反落の場合、(1)1本前の安値をブレイクすること、
(2)終値が+2σラインを下回ること、の両方を満たすこと。

赤色スパン陽転の順行パターンの買いサインが点灯中。

<<4時間足分析>>

緩やかな上昇トレンド局面と調整反落局面が併存。

すなわち、終値がセンターラインを下回るまでは、緩やかな上昇トレンド局面が
続き、終値が+2σラインを上回るまでは、調整反落局面シナリオが残る。

<<1時間足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

■ポンド円

<<週足>>

本格上昇トレンド局面。「走る相場」

終値が+2σラインを上回ったことで、相場が上放れた状況。

終値と+1σラインとの位置関係を注視したい場面。

尚、目先、+2σラインを上回り「走る相場」となっているため、「リバーサルパターン」
にも注意をして臨みたいところ。

「リバーサルパターン」の条件は、反落の場合、(1)1本前の安値をブレイクすること、
(2)終値が+2σラインを下回ること、の両方を満たすこと。

<<日足分析>>

本格上昇トレンド局面。

終値と+1σラインとの位置関係を注視したい場面。

尚、相場が上昇方向で走っている為、「リバーサルパターン」の発生にも注意して
臨みたい場面。

「リバーサルパターン」の条件は、反落の場合、(1)1本前の安値をブレイクすること、

(2) 終値が+2σラインを下回ること、の両方を満たすこと。

赤色スパン陽転、及び、買いシグナルの逆行パターンの売りサインが点灯。

終値が+2σラインを下回ったため、逆行パターンの売りサインが点灯した格好。

<<4時間足分析>>

緩やかな上昇トレンド局面と調整反落局面が併存中。

終値がセンターラインを下回るまでは緩やかな上昇トレンド局面が続き、終値が

+2σラインを上回るまでは、調整反落局面シナリオが残ると読む。

いずれにせよ、この場面では、往来しやすい地合いにあると読む。

<<1時間足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

★尚、スーパーボリンジャーは、価格的要素を重視し、より短期の判断、スパンモデルは、時間的要素を重視し、より長期の判断となる。また、スパンモデルシグナルは、より短期の判断、赤色スパンは、より長期の判断となる。

◆「マーフィーFX」YouTubeチャンネル登録のご案内。

<https://www.youtube.com/channel/UCTOj289ZKb3JgFqj5RefBcg>

様々なマーフィー流相場分析、解説が動画で無料視聴出来ます。

◆マーフィー流FX「実践トレードコーチング専用」ライン@のご案内。

以下より登録できます。

<https://www.span-model.com/line/>

◆「スパンオートトレーダー(SAT)」のご案内。

「スパンオートトレーダー(SAT)」とは、「裁量トレード」と「自動売買(EA)」

の良いとこ取りをした、とても便利なトレードツールです。

「スパンオートトレーダー」の詳細、及び、お申込みページはこちらです。

<https://www.xfine.info/satrader/>

◆「スパンオートシグナル」のご案内。

スパンモデルを有効に使いこなす為のきわめて強力なツールです。

スパンオートシグナルのご紹介、および、ご購入用ページはこちらです。

<https://www.xfine.info/sauto/>

以上です。